

【1月】
成人式 3日
消防出初式 6日
柿の里ひろば
杉尾秀哉氏講演会 26日

【2月】
ペタンク大会 3日
高森★みらい議会
(小・中学校) 6日
シニア大学⑥・開校式 21日

【3月】
子育て講演会 2日
親子科学体験教室 3日
幼虫ホテルの放流 13日
高森家の団らん会 16日

【4月】
公民館初顔合わせ 23・24日
市町村対抗駅伝大会 29日

【5月】
柿の里ひろば
龍村修氏ヨガ講演・実技 2日
コミュニティーコンサート 3日
中学校落成式 11日

【6月】
シニア大学①・開校式 20日
天伯峽ほたる祭 22日
スポ少ジュニアリーダー
スクール 22・23日
町消防団操法大会 30日

【7月】
公民館スポーツ大会 7日
時の駅講座① 6日
シニア大学② 4日
広島平和バス結団式 20日
町議会議員選挙 21日
育成会ふれあいキャンプ
南相馬市受け入れ 27～29日

【8月】
南相馬市応援プロジェクト
仲間と過ごす夏休みバレーボール
教室&中学校こけろ落とし

2・3日
島岡野球教室 4日
広島平和バス 5～7日
ちびっこなつまつり 11日
戦没者追悼平和祈念式典 15日
平和を考える集い 18日
島岡吉郎旗中学生野球大会 18日
広島平和バス報告会 24日
平和講演会 31日
時の駅講座② 31日

【9月】
シニア大学③ 5日
狼煙リレー 7日
町民ゴルフ 8日
島岡吉郎旗小学生野球大会 22日

【10月】
シニア大学④社会見学 3日
町民運動会 13日
時の駅講座③ 19日
シニア大学⑤ 24日

【11月】
柿の里ウォーキング 3日
文化祭 15～17日
まるごと収穫祭 16・17日
教育を語る会 23日
町内駅伝大会 24日

【12月】
被爆柿の木2世
柿の実試食会 1日
柿の里ひろば
フォレストコンサート 6日
公民館大掃除 8日
福祉センター大掃除 9日
社会体育施設大掃除 14日
社会教育活性化プログラム
講演会 26日



秋深く天竜川の朝霧を望む (月夜平にて)

本紙が選ぶ 2013年 5大ニュース

高森中学校新校舎完成
昨年末に待望の高森中学校新校舎が完成し、今年の1月から、新校舎での学校生活が始まりました。
柿色の校舎の中に入って、まず驚かされることは、広々としたスペースがあちこちに設けられ、ゆったり感があるところです。体育館2階にはランニングスペースがあり、各教室の前の廊下は、ワーキングスペースとして様々な活動ができるようになっていきます。日なた

今年度より飯田市役所市民課の職員として働いております樋口晋哉と申します。今年大学を卒業して地元の高森町に帰って来ました。



樋口晋哉

樋口晋哉 (上市田)

社会人1年目ということで不安も多いですが、家族や友人などに励まされなんとかやっています。また、ご近所や親戚の方も気軽に声を掛けてくださり、大学4年間で忘れかけていた地元の温かみを感じています。これからそんな地域の方々に恩返しをしていきたいと思っています。

スポーツイベント 3年ぶり

7月7日(日)に、毎年恒例の公民館スポーツ大会が行われました。中学校の改築が無事終わり、3年ぶりにワンバウンドふらばーるバレーボールとスローピッチソフトボールの同日開催となりました。町民体育館で開会式が行われ、準備体操の後、各会場にて、和気あいあいとした中にも熱気を感じた大会は各分館ごとに行われ、労をねぎらい、地域の親睦を深めることができました。

8月16日(金)には、これも3年ぶりの開催となる高森町盆踊り大会が行われ、協力の野球連盟に移行しました。これまでは分館対抗でしたが、出場チームがオーブン参加となったため、様々なチームが参加し、手に汗握る試合が繰り広げられました。

森町盆踊り大会が行われ、協力の野球連盟に移行しました。これまでは分館対抗でしたが、出場チームがオーブン参加となったため、様々なチームが参加し、手に汗握る試合が繰り広げられました。

新町議決まる
任期満了に伴い行われた町議会議員選挙には、定数を1上回る16人が立候補し、7月21日の投票の結果、現職8人・新人7人の計15人が当選した。

館報では、「町政を担う新議員に問う」と銘打ち、質問をした。高森町の課題から公民館に期待すること、趣味など答えていただいた。人口減・高齢化といった課題が多く挙がる中、町の活性化に向けてはリニアへの期待や産業・農業振興・子育てに重点を置くことなどが挙げられた。

今年から8月は「平和推進月間」

満蒙開拓は、国策として、農業移民を昭和7年から20年まで13年間行った。広島・長崎・沖縄とは違い、もう一つの8月9日の歴史として、向き合っていく歴史がある。あまりにも悲惨な理解してもらえない体験。引揚者が戦後おかれた立場等、複雑な背景がある。悲劇だけではなく、多面的な歴史の検証である。

町では今年度から、8月を「平和推進月間」とし、その一環として平和学習会が行われた。

演題は「満蒙開拓の歴史を受け継ぐ」と題し、満蒙開拓平和記念館事務局長の三沢亜紀氏を招き講演会を開催した。

本設計・火葬場の完成イメージをまとめた。これを踏まえ、平成25年7月に高森・松川両町の都市計画審議会が開催され、審議決定を受けて建設地となった。

三面鏡

年越しに食べる「年取り魚」は、東日本では「鮭」、西日本では「鰯」を用いることが多いという。もう少し詳しい話では、長野県の松本平から木曾川筋を境にして、その北東部では「鮭」、南西部では「鰯」に分かれるとの説がある。おもしろいことに、食文化の東西の分かれ目が長野県にあるらしいのだ。今、朝の連続ドラマが楽しみである。東京から大阪に嫁いだ主人公が、人間関係に苦労しながらも、やりくりして「365日家族にいいものを食べさせたい」と奮闘している。最初、彼女は大阪のだしの味がわからなかった。そこで数日間絶食し、うどんを食べる。東京のカツオだしとは違う、大阪の昆布だしの微妙な味を発見し、感動して「おいしい」と叫ぶ場面が印象的であった。そういえばカツプうどんにも、関東用と関西用で汁の味が違う製品がある。関西出身の私は、容器に「W(WEST)」と印された製品を探したことがあった。それぞれ住む所によって、味や食べ物は違うのであるが「食べることは毎日の生活そのものである。流通事情にも影響されるが、その土地で採れるもの、気候に合った食べ物が、食の文化を創り出していく。食事の全てを地産地消でまかなうのは難しいが、季節の旬のものを取り入れ「おいしい」と笑顔になれる生活を送りたい。

高森町
季節の野鳥



～シリーズ～
No.10
ツグミ



撮影 角屋明美

老人から「昔は、秋から冬になると山の中に網を張って、群れになって渡ってくる鳥を捕まえては焼き鳥にして食べたもんだ」とか「街道の峠には焼き鳥屋があつて、秘伝のタレを付けた

「ツグミ」は冬鳥の仲間、高森町へは晩秋から初冬に北の国からやってきて、4月にまた北へ帰っていきま

す。取り残された熟し柿やウメモドキの赤い実などを食べたり果樹や庭木の下を

焼き鳥は特にうまかった」といってお話をお聞きしたことがあります。その鳥の種類を尋ねると、たいていの方は「そりゃツグミだな」と答えてくれます。今はこの鳥を捕ることは法律で禁じられていて、あまり聞いたことがないかもしれませんが、昔は焼き鳥として大変身近な鳥だったようです。

展 示 発 表

公民館の文化祭展示発表が、11月15日(金)から17日(日)の3日間開催されました。小中学校の児童生徒の作品をはじめ、教室、サークル等の各グループ作品または個人の作品の展示、団体の活動内容の報告等、文化活動に励む住民の日頃の成果発表

や交流の場として、毎年町開催しています。中央公民館、福祉センターでは、美人画、水墨画、書道、写真、アレンジフラワー、パッチワーク、絵手紙、手まり等々、今年も多彩な作品が展示され文化祭を盛り上げていました。また公民館報展の展示も同時に行いました。



禁煙会ポスターとアレンジフラワー

町民体育館では、公民館教養部主催の「手作り体験教室」が行われました。会場は大勢の子どもたちで賑わっていました。工作の指



上手につくれたかな？

導は宮崎範さんが、また、お手玉の指導は星野ヒロ子さんを中心としたお手玉ジャグリ&スマイルの皆さんがしてくださり、

小さい子どもが作っていると、小学生のお姉さんが教えてくれたりと、ほほえましい場面もありました。親子で話しながら、自分で作ったおもちゃで遊ぶということは、貴重な体験で、思い出に残ると思います。

お手玉、貝ホルダー、ブンブンこま、面かぶ

普段テレビを見たり、ゲームをしたりして過ごしてしまいがちな子どもたちも、親子で話をしながら、自分で作ったおもちゃで遊ぶということは、貴重な体験で、思い出に残ると思います。

手作り体験教室

特集
平成25年度 公民館文化祭
大勢の子どもたちで賑わった

ステージ発表



今年は分館での発表も！（上平分館）

今年もエアロビクス、和太鼓、楽器演奏、健康体操、歌やフラダンスなど日ごろの練習の成果を存分に発揮

最後は2日間のステージ発表のフィナーレでは昨年同様、長野県住みます芸人「こてつ」が登場し、ご当地キャラクターの紹介や、豪華景品が当たる抽選会も行われました。

11月16日(土) 17日(日)の2日間まるごと収穫のステージ発表が行われました。両日とも好天に恵まれステージ前には沢山の観客が集まり、盛りだくさんの発表に見入っていました。その中でもいろいろな団体で活動している歌うことが大好きな方が集まっていたフレンドカプリコンは、代表の方の作曲した、地元

文化祭テーマ
「育てようふれあいの郷」
～育ちあい 支えあい みんなで動かす元気な町 たかもり～

デジタルフォトカレンダー

文化祭の人気コーナーとして視聴覚部が行っている「デジタルフォトカレンダーづくり」。今年も好評で、撮影に訪れる家族連れやご

夫婦、友だち同士で長い列ができていました。視聴覚部のスタッフの方々が手際よく撮影や編集を行い、来年のカレンダーと合成してリントで次々と作成していました。



できあがりを楽しみ!!

ご家族で撮影する際には、小さい子どもさんもあるため、スタッフの方が「硬くならず笑ってね」などとアドバイスをして、皆さんの素敵な笑顔を引きだしていました。

来年も多くの皆さんが楽しみにしていることと思います。視聴覚部の皆さん、2日間お疲れ様でした。

各教室、サークル、クラブ等で取り組み、個々の趣味を持つことで生きがいになり、また地域での仲間、絆づくりや町づくりにつながっていると数多くの作品から感じました。

厳かな雰囲気の中で —松岡城址の秋を観る会—

11月10日、松岡城址愛護会主催による、第3回「松岡城址の秋を観る会」が開催されました。紅葉に彩られた城址内で、各団体による演奏を楽しむ予定でしたが、あいにくの雨になってしまったため、松源寺お堂内で行われました。

はじめに愛護会から、10月23日にできた松岡氏5百年慰霊碑建立についての報告があり、「城址内のできたので、機会があれば拝みに来て頂く」とのお話がありました。

心彩毬彩による趣



お堂に響くキッズ彩の勇ましい太鼓

淡交会の皆さんのお手前で呈茶が行われ、飯田女子高茶道部員にもお手伝いいただき、この日のために創作した和菓子と抹茶が振舞われました。普段入る機会がないお堂内で厳かな雰囲気漂う中、来場者全員で「松岡城の風」を歌い終了となりました。

下伊那北部火葬場予定地で —矢沢遺跡説明会開かれる—



矢沢遺跡の説明をする酒井さん

吉田の小沼地籍に建設される下伊那北部火葬場の建設予定地で10月27日、矢沢遺跡の現地説明会が開かれ54名の見学者が集まりました。

矢沢遺跡の名は、この地が古くは「矢沢の洞」とも呼ばれたことに由来する。試掘で土器片が出土し、今回の遺跡調査となった。松川町教育委員会からも調査員が派遣され、高森・松川・豊丘3町村の発掘協力員が加わり、調査団は総勢20名程。松川町資料館の酒井幸則さん(写真)の解説を伺った。

8月の発掘当初は、今から3〜4千年前の遺跡と思われたが、8千年以上前とみられる回転型土器のかけらも2つ出土した。釣りや漁網定置用とみられるおもり石が多数出たことは、近隣の遺跡では見られない特徴だ。木の実などをすり潰す石皿は諏訪地方の石祭事用とみられる敷石遺構には山梨産の水晶もあった。

8月号に投稿すると、反響がとて大きかったそうです。しかし、地域の方が宮下氏のことを知らないのは残念であり、この講演会をきっかけに語り継いで記録に残し、輪を広げていきたいとお考えです。

宮下氏の代表作『山をゆく歌』は、この伊那谷を舞台にした物語で、主人公の少年が、地球がハレー彗星の尾に巻き込まれるという噂は本当なのかと、鬼面山を眺めて吉凶を見るために虚空蔵山に登り、そのまま木曾山脈に迷い込むという冒険譚です。これは作者の子どもの頃の体験が元になっており、そこには伊那谷の原風景があると賞されています。

まちの としよかん

高森発の児童文学の復刊にかける
山田博章さん 講演会
『児童文学者・教育者宮下正美先生について』
10月12日(土)、旧市田村、出身出身の宮下正美氏の作品や復刊への願いについて、山田博章さんが語られました。



復刻本の刊行に向けて山田さんはこれから『山をゆく歌』の復刻本を出したいと考えておられます。この本は現在、町の図書館に1冊、飯田市立中央図書館で2冊所蔵されているだけです。

論 説

今年のプロ野球は楽天が日本の一になったが、その戦いぶりは、大いに日本中を沸かしてくれた。子どもの頃から巨人ファンであった団塊世代の筆者も、ついジーンときてしまった。後日の優勝パレードでも、地元ファンの一人在、「感動がありとう」と叫んでいた。年のせいばかりではない。読めなかった。こんな俳句だろうが、この秋は、自分にとつて、このような涙腺のゆるむニュースが多かった。たとえば、アンパンマンを生んだ、やなせたかし

は、1ヶ月に2〜3分だけでも、涙を流す時間を設けることで、心の部分の解毒を図る活動であるとのことだ。

私たちは日々、思い通りにならないことや納得のいかないことなどに取り囲まれている。だからこそ、スポーツ、映画・音楽・読書など、自らの趣味を通して、意図的に感動の涙を流すことを勧めたい。

「感動」で涙腺をゆるめよう

映画・音楽・スポーツ

悲しい悔しい涙より、感動の涙の方が効果的であるという。涙を流す「涙活(るいかつ)」というイベント

宮下正美氏 略歴

- 1901(明治34)年 旧市田村出原に誕生
- 1919(大正8)年 飯田中学校卒業
- 慶應義塾大学文学部卒業後、同付属幼稚園の教諭になり、執筆活動開始
- 戦後、「湘南学園」園長に就任
- 退職後、杉野女子短期大学教授に就任
- 1982(昭和57)年 永眠(享年82歳)



『山をゆく歌』

教育者としての著書も多く、家庭教育(しつけ)についての本もあり。さらに子供向けの科学の本も執筆し、様々な分野で活躍されているので、山田さんは「各分野に明るく、非常にバランス

お知らせ

年末年始の休館日

12月29日(日)〜1月4日(土)までお休みとなります。返却はブックポストへお願いします。

記事訂正

9月30日発行571号で紹介した、竹の子会の開催の誤りでした。訂正してお詫言いたします。

書架寄贈のお礼

下伊那厚生病院より、本棚3台を寄贈いただきました。ありがとうございました。

時の駅特設コーナー 蚕の飼育体験

高森町ではかつて養蚕が盛んだったことを子どもたちにも伝えたい。そんな願いを込めて、歴史民俗資料館「時の駅」では、入口ホールの一画に、敷地やその周辺をはじめ、桑畑が一面に広がっていた高森町も、養蚕を営んでいたのはわずかに二軒となり、子どもたちが蚕に触れる機会ほとんど無くなりました。今回の企画が、子どもたち

に大きくなる姿を見て、徐々に「かわいい」と感じるようになって、大勢の小学生が学校帰りに立ち寄っては蚕の成長を見守りました。また、当時を知る年配の来館者は、「なつかしい」と昔の暮らしや自分自身が経験したことを振り返っていたそうです。

「時の駅」の敷地やその周辺をはじめ、桑畑が一面に広がっていた高森町も、養蚕を営んでいたのはわずかに二軒となり、子どもたちが蚕に触れる機会ほとんど無くなりました。今回の企画が、子どもたち



蚕の飼育体験コーナー

第30回記念 高森町駅伝大会

— 初冬の景色の中タスキをつなぐ —



第30回記念高森町駅伝大会は、11月24日(日)、晴天の初冬の空の下、小学校男子・女子、中学校男子・女子、一般男子・女子、一般男子・女子計6部門に55チーム約400人が参加して盛大に開催されました。この駅伝大会は、昭和59年に第1回が開催され、今年で30回を迎える記念大会となりました。

開会式は、熊谷大会長の挨拶に始まり、町議会議長後援をいただいた信濃毎日新聞社飯田支社長の激励の挨拶を受け、選手宣誓は昨年度総合優勝の「栄光の駒」チーム代表の選手が行い、選手は各中継場所に移動しました。

今回のコースは、中学校グラウンドを出発し、町内を南北に回り原城集会所前を中継し、同グラウンドに戻る6区間17.3kmで、各チームが1本のたすきをつなぎました。

午前10時の号砲で55名の選手が一齐にスタートしました。沿道や中継所に集まった住民から「頑張れ!」と大きな声援や拍手を受けながら、小学生と一般大人の選手が一緒に力走しました。



勝利をめざして一齐スタート

地球温暖化防止活動 74

素敵な少欲知足の生活

たかもり環境塾

大量生産、大量消費、大量廃棄の社会にどっぷりつかって暮らしていると、これが当たり前のように思ってしまうが、これは世界でもかなり異常なことになっているようです。

この異常なシステムを下支えしているのが大型焼却炉と云えます。ダイオキシンを発生させないために800度以上に保つ必要から大量のゴミが必要になります。ゴミを減らす必要がなくなり、環境破壊のシステムから抜け出すことができません。一方、沖縄県では、ほとんどの市町村が環境大臣賞をとった高性能のチリメーサーという小型焼却炉の導入で充分ゴミ

今回の大会は、実行委員会の皆さん始め、コースの安全を誘導した交通安全協会の役員の方々等、大勢の皆さんの協力により、無事駅伝大会が終了しました。

今回の大会は、実行委員会の皆さん始め、コースの安全を誘導した交通安全協会の役員の方々等、大勢の皆さんの協力により、無事駅伝大会が終了しました。

サイクル紹介

体の中からキレイになるヨガ教室

私たちは毎週土曜日の朝9時30分から公民館2階でヨガをやっています。参加者の年齢も幅広く親子で参加している方もいます。ゆっくりと呼吸を意識して体をほぐしたり、ポーズをしたりのこりや歪みを修正していきます。その日の体調に合わせて自分のペースで行っていますので、1時間の教室が終わると肩こりや背中



連絡先・問合せ
☎ 35-41107 中塚まで

新婚さん今日は

今回は10月19日に結婚式を挙げられた、北原正之さん・愛さんご夫妻を紹介いたします。

正之さんは上市田、愛さんは飯田市上久堅のご出身です。明るくおしゃべりしてくれるおふたりからは、気さくに友達の輪をつくる魅力が伝わってきました。

そんなおふたりが披露宴で、一番こだわったのは、プロフィールビデオです。思い出深い家族写真はもちろん、学生時代に一緒に成長した友達、日々の仲間が自分たちにとって本当に大切なものなんだと改めて感じたといいます。



北原正之さん(上市田) 愛さん(飯田市)

おふたりは職場の同期入社で知り合いました。愛さんを「おっとりしたので日帰りで出かけ、飯田を朝3

外フェスに出かけたといいます。ジャパニーズ・レゲエというジャンルが面白いとのこと。淡路島フェスでは、そんなに遠くの地だと考えていなかったのが日帰りで出かけ、飯田を朝3

- ### 【大会成績】
- 総合優勝(信毎杯) Ultimate Runners
 - 女子総合優勝 (谷川真理杯) 走れ!陸部女子
 - 小学生男子 優勝 BASUKEストロング7
 - 小学生女子 優勝 ミニバス女子A
 - 中学生男子 優勝 Ultimate Runners
 - 中学生女子 優勝 走れ!陸部女子
 - 一般男子 優勝 over the limit
 - 一般女子 優勝 FLAT Ladies